

TLP:CLEAR

2025 年度
第 2 四半期レポート

2025 年 10 月 24 日

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

内容

【第 1 章】 運営委員会からの活動報告	3
1. 2025 年度第 2 四半期に入会いただいた新規会員	3
【第 2 章】 SOC からの活動報告	4
1. 2025 年度 第 2 四半期の概要	4
1) 脅威・脆弱性情報の報告件数	4
2) 脅威・脆弱性情報レベル	5
3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー 2 社間での同一案件の比率	6
【第 3 章】 技術委員会からの活動報告	7
1. はじめに	7
2. 2025 年度活動計画と実績報告	8
1) 2025 年度活動計画	8
2) 技術委員会活動成果物	8
3. 【トピック報告】 2025 年度協同演習（2025/7/23 開催）	9
1) ねらい	9
2) 2025 年度協同演習概要	9
【第 4 章】 CSECC からの活動報告	10
1. はじめに	10
2. 2025 年度の活動と上期の進捗状況	10

【第1章】 運営委員会からの活動報告

1. 2025 年度第 2 四半期に入会いただいた新規会員

新規入会会員

- ・シルバー会員 インフィニオン テクノロジーズ ジャパン株式会社
- ・シルバー会員 愛三工業株式会社

※2025 年 9 月末時点の会員数 120 社 + 学術会員 2 名

【第2章】 SOC からの活動報告

1. 2025 年度 第 2 四半期の概要

1) 脅威・脆弱性情報の報告件数

2025 年 7 月から 9 月の 92 日間で提供された週次情報レポートの件数は、合計 113 件でした。
図 1 で内訳が示されています。

脅威・脆弱性情報の報告件数は、2025 年度第 1 四半期と比較すると増加しています。
なお、車両に関連する新たな重大な脅威・脆弱性情報及びインシデントの発生はありませんでした。

① 脅威・脆弱性情報	74 件
② 業界動向情報	39 件

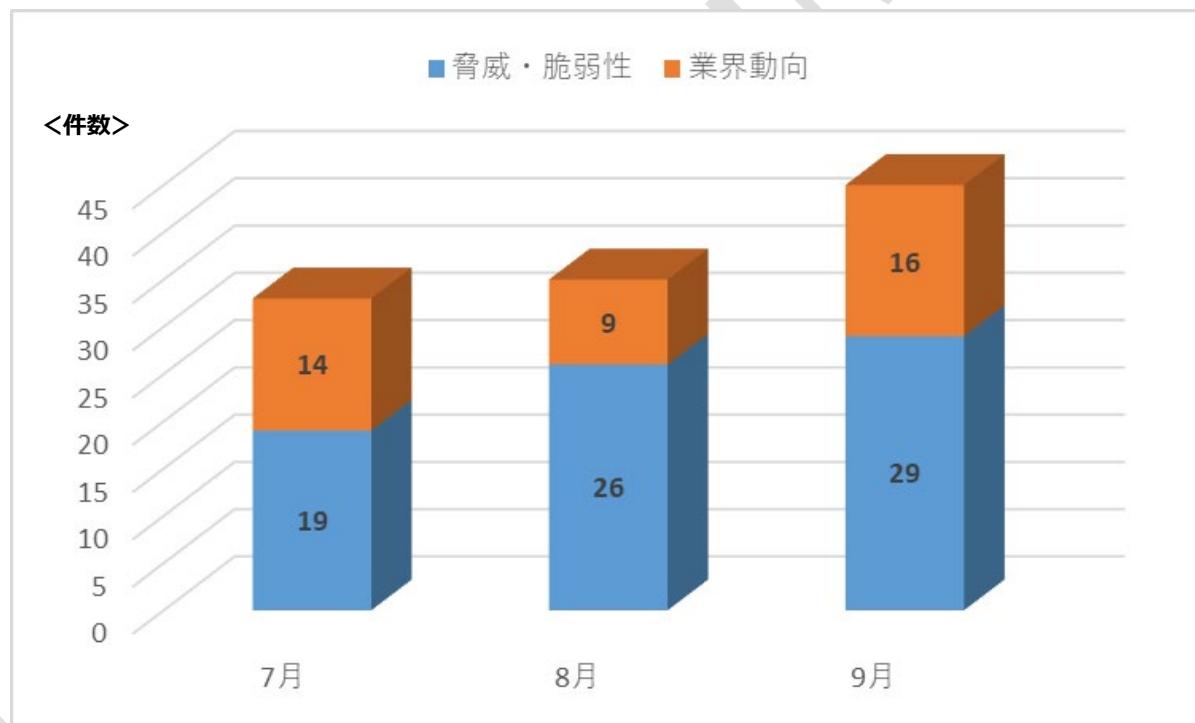


図 1 週次情報レポート 提供件数

※脅威・脆弱性情報件数は、自動車に係わる情報のみであり、かつ同一案件を除く

2) 脅威・脆弱性情報レベル

第2四半期における報告した脅威・脆弱性情報を分類すると図2のようになります。
 重大情報と位置付けられた案件はありませんでしたが、要注意情報の件数は平均9件/月で、2025年度第1四半期に比べるとわずかに減少しています。

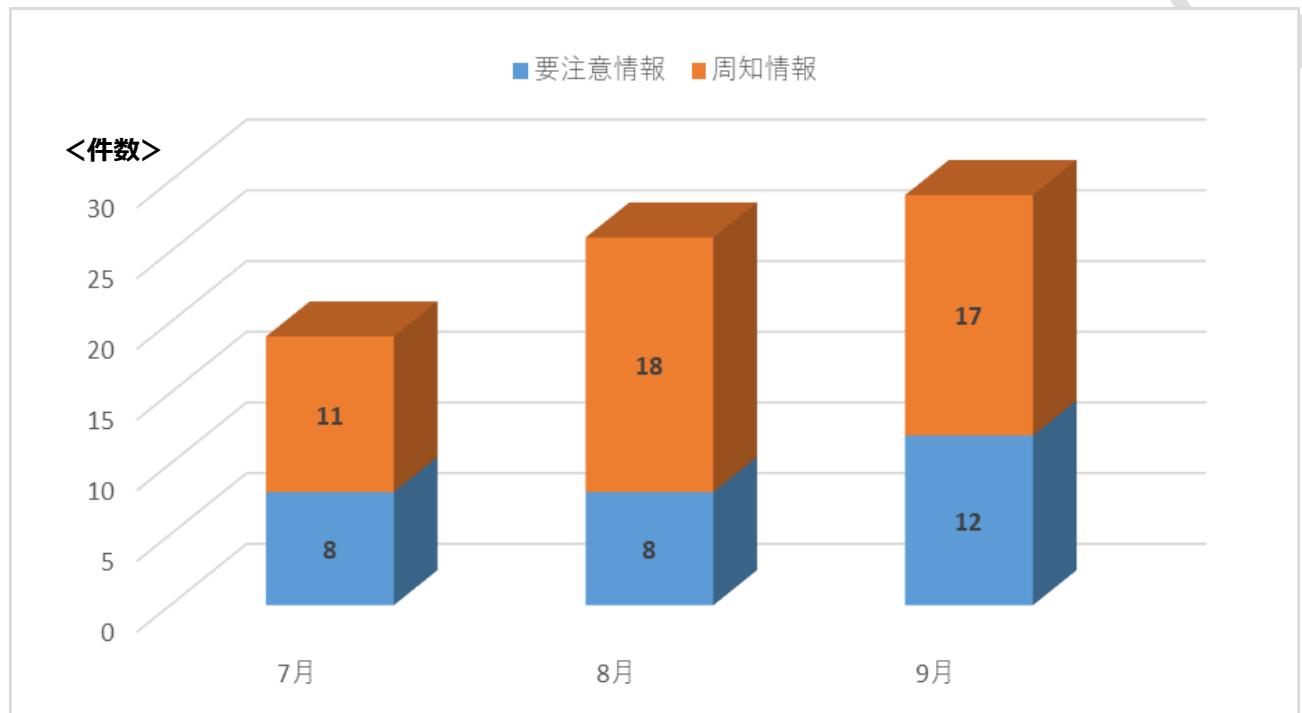


図2 脅威・脆弱性情報 レベル別件数

<参考>

※1.要注意情報 :

自動車への関連性があるが影響度・攻撃可能性が高くない脅威・脆弱性情報

※2.周知情報 :

注意すべきセキュリティニュースなど動向として認識すべき情報

※3.重大情報 :

自動車への関連性があり、かつ影響度・攻撃可能性が高い脅威・脆弱性情報

3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー2社間での同一案件の比率

2社から提供される脅威・脆弱性情報のうち、同一情報の比率は図3に示す通りとなります。平均して20%程度が同一案件となっており、2025年度第1四半期に比べると割合は低下しています。

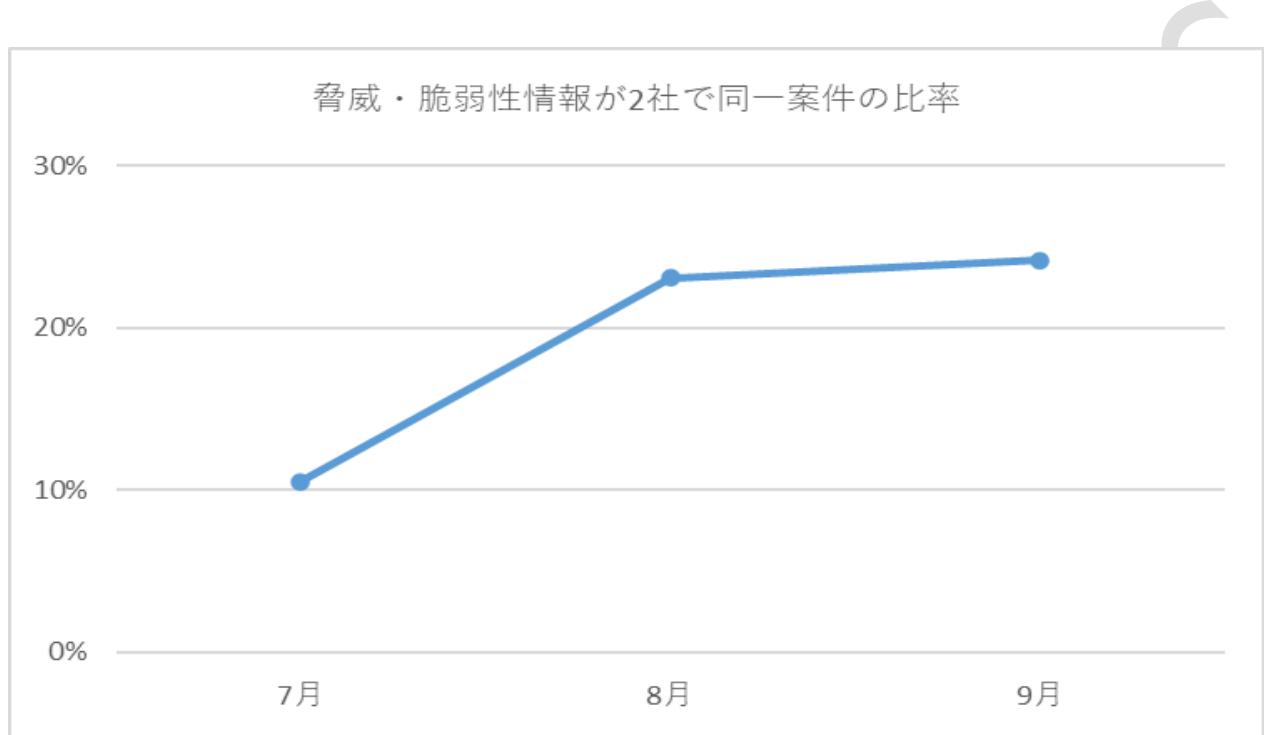


図3 脅威・脆弱性情報 同一案件比率

【第3章】 技術委員会からの活動報告

1. はじめに

技術委員会は、昨年度までの 3WG/11SWG/1TF 構成から 2025 年 4 月より 2WG/6SWG/3TF に再編され、2025 年度の計画に則って活動を推進している。今回は、その施策の一つである協同演習を 7 月 23 日（水）に実施しているので、その概要を本章のトピックとして報告する。

再編後（2025 年 9 月 1 日時点）の技術委員会活動人員を表 1 に示す。

表 1 技術委員会活動人数の推移

委員会/WG/SWG	FY25 2Q ('25.9.1)	FY25 3Q ('25.12.1)	FY25 4Q ('26.3.1)				前回比増減
技術委員会	延べ参加人数	216					-
	委員会活動参加企業数／会員企業総数	73／120					-
情報共有WG	96						-
インシデント事例検証SWG	30						-
脆弱性対応SWG	54						-
情報共有プラットフォームSWG	10						-
スキルアップWG	68						-
協同演習SWG	15						-
個別研修SWG	20						-
ベストプラクティス策定SWG	31						-
サプライチェーンリスク対応TF	28						-
フォレンジック検討TF	13						-
法規・標準動向調査TF	8						-

2. 2025 年度活動計画と実績報告

1) 2025 年度活動計画

表 2 2025 年度実施項目

実施項目
1)技術委員会の戦略策定 業界に必要なサイバーセキュリティ対応能力の強化に向けた戦略の策定
2)成果物の発行 技術委員会傘下 6 つの SWG と 3 つの TF 活動を通じて参加会員の活発な意見交換やナレッジ共有を継続すると共に参加各社のサイバーセキュリティ対応能力の強化に貢献出来る成果物の発行

本計画（実施項目）に基づき、具体的な目標と取り組み方策を明確にして実行し、技術委員会活動をさらに発展させる。

2) 技術委員会活動成果物

表 3 活動成果物一覧（発行成果物と発行予定）

時期	成果物
2025 年 5 月	・第 5 回活動報告会（各 SWG/TF 活動報告書）
2025 年 6 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#1
2025 年 7 月	・協同演習の開催（@2025.7.23）
2025 年 9 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#2 ・脆弱性分析レポート#1 ・クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ取り組み(更新) ・ユースケース集(サプライチェンリスク対応 TF) ・協同演習速報
2025 年 12 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#3 ・協同演習レポート
2026 年 1 月	・コネクテッドカーフォレンジックの課題に係る文書
2026 年 2 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#4 ・脆弱性分析レポート#2 ・SWG 版 Car モデル(脆弱性対応 SWG) ・ベストプラクティス解説書

2025 年度も成果物を社内外へ展開していく。

3. 【トピック報告】 2025 年度協同演習（2025/7/23 開催）

年 1 回継続している協同演習を本年度も開催しました。以下、概要を報告します。



1) ねらい

俯瞰的に脆弱性対応に係わるプロセスを体験すること

- 脆弱性の検知から対応方針の決定までを含む
- OEM とサプライヤの両者が当事者かつ連携が求められる脆弱性を扱う

2) 2025 年度協同演習概要

- ・オンラインと対面のハイブリッド開催 51 社(前年 + 10 社) 261 名 (前年 + 105 名) が参加
OEM、サプライヤ、ベンダーなどの企業レベルでの多様性に加え、品証、開発、PSIRT など様々な立場の担当者が参加
- ・OEM とサプライヤの連携をより実践的にする情報と ISAC ドキュメントの活用
 - 外部から入電した不確かな脆弱性情報に対して、OEM とサプライヤが連携し、事象の全体像を明らかにしていく
 - OEM のみが知る情報、サプライヤのみが知る情報をそれぞれに付与し、事前検討
 - J-Auto-ISAC 内の取組みで作成したドキュメント、フォーマットを活用
 - > クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取組み（公開中）
<https://j-auto-isac.or.jp/documents/>
 - > インシデント分析技術レポートフォーマット

過去最高の 51 社 261 名が参加し、脆弱性対応に係わるプロセス手順の理解を深めることができた。

【第4章】 CSECC からの活動報告

1. はじめに

サイバーセキュリティエコシステム構築センター（以降、CSECC）では、自動車業界全体のサイバーセキュリティ対応能力を中長期的な視野で底上げすることを目標に、日本自動車工業会（JAMA）、自動車技術会（JSAE）、JASPAR、日本自動車部品工業会（JAPIA）、Auto-ISACなどの業界団体と連携し、抜け漏れのないCS品質向上活動の実現を目指しています。

現在、CSECC 傘下には 2 つのワーキンググループ（WG）があり、セキュリティ人材育成 WG には 21 社から 23 名、SBOM-WG には 32 社から 47 名が参加しています。これらの WG では、業界連携に必要な成果物の策定を行うとともに、参加メンバーによる実務レベルでのナレッジ共有と意見交換の場を提供しています。

今レポートでは、2025 年度の取り組み内容と上期の進捗状況について報告いたします。

2. 2025 年度の活動と上期の進捗状況

CSECC の取り組み内容と上期の進捗状況を表 4 に示します。

表 4 2025 年度の取り組み内容と上期の進捗状況

項目	取り組み内容	上期の進捗状況
スキルマップ	<ul style="list-style-type: none"> ・業界団体で議論のベースとなるスキルマップ初版の作成 ・業界団体で教育体系と役割分担の整合 ・J-Auto-ISAC における教育資料の策定計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルマップのドラフト作成中 部門別、要件別に整理
SBOM	<ul style="list-style-type: none"> ・SBOM 活用の文書公開 ・業界団体でのスコープとユースケースの合意 ・文書改訂に向けた意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術委員会と CSECC に加え、連携する業界団体に、SBOM 活用の文書公開 ・業界団体で意見交換を開始

セキュリティ人材育成 WG では、業界団体が連携して求められる人材を育成するためのベースとなるスキルマップ策定を今年度の取組みとしています。現在、部門別、および UN-R155 要求別に必要なスキルを整理し、ドラフト版の作成を進めています。

SBOM-WG では、JAMA、JASPAR、JSAEとの連携を軸に、SBOM 活用のスコープやユースケースの議論を進めながら、J-Auto-ISAC としての SBOM 活用文書の改訂を今年度の取り組みとしています。現在、技術委員会と CSECC、連携する業界団体に SBOM 活用の文書を開示、一般公開に向けた準備を進めています。また、業界団体との SBOM のスコープや運用に加え、ユースケースに関する意見交換も開始しました。

CSECC では、各 WG の活動成果を表 5 に示すタイミングで発行や紹介をしていく予定です。

表 5 CSECC 成果物発行予定（J-Auto-ISAC 内部公開）

予定	成果物
2025 年 5 月	● 第 5 回 TC&CSECC 合同活動報告会（各 WG 活動報告書）
2025 年 6 月	● SBOM 活用の文書（初版）
2025 年 10 月	● Auto-ISAC Cybersecurity Summit 2025 レポート
2025 年 12 月	● スキルマップ（初版） ● 第 6 回 TC&CSECC 合同活動報告会（各 WG 活動報告書）
2026 年 3 月	● SBOM 活用のスコープ・ユースケース ● スキルマップに基づく教育体系

今後 CSECC では、各 WG の議論と成果物を基に、業界団体と連携し、自動車業界全体で抜け漏れのない活動が行われることを目指して取り組んでまいります。

以上

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

E-mail : info@j-auto-isac.or.jp

<https://j-auto-isac.or.jp/>